

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491400042		
法人名	医療法人 ほとけの里		
事業所名	Gruppo はるかぜ		
所在地	国東市国東町来浦2798番地		
自己評価作成日	平成26年11月27日	評価結果市町村受理日	平成26年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>看護師を配置し医療的な視点からも認知症状の緩和を計る。 終末期を迎えてもその人らしく最後まで看取る。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>・チームワークが良く、明るく働きやすい職場で、困った事など相談しやすい。 ・ゆっくりと関わることが出来、利用者の思いを察知しかかわれるので利用者がのびのびと暮らしている。 ・廃校となった小学校を改築した建物で、敷地も建物内も広々としていて開放感が感じられる。 ・母体が医院であり、管理者も看護師で看取りを行う方針のため利用者は安心して過ごせる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

評価機関：福祉サービス評価センターおおいた

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに掲示。 毎朝唱和し努力している所です。	運営方針を各ユニットごとに掲示し、毎朝、ミーティング時に施設長と職員が唱和して、振り返りと共に共有化を図り実践につないでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	旧小学校舎での事業なので地域から注目をあびています。季節ごとに地域住民との交流を計画しています。	事業所が旧小学校舎で地域住民にとっても馴染みの場所となっている。事業所の行事への住民の参加も多く、事業所側も地域の行事に参加している。野菜の差し入れなど日常的な交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学等の希望団体に対して認知症の学習会等催し、交流をしていただく様お願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を重ねるたびに地域からのご意見や要望が聞かれる様になり法人全体で取り組める様努力中です。	区長、民生委員、老人会長、消防団長、地域のボランティア、行政、利用者及び家族等多くの人が参加している。2ヶ月に一回行っている。事業所の状況報告を行っている。意見も出されている	運営推進会議録もあり、参加委員からの意見も記録されているので、今後は意見をサービス向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退所、入院状況を定期伝えている。	利用者の入院期間の設定や、入所申し込みなど介護度による入所条件について電話などで相談をしている。運営推進会議の出席もあり、普段から関係作りができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者のその日の気分を察知し、スタッフ間で協力し合い、散歩や気分転換できる工夫をしている。	目が離せない利用者には表情や排泄の把握をし不穏時は皆で協力し合い、事業所周辺を散歩したり鍵を掛けないように対応をしている。月1回のユニットごとの全体会議で拘束について話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の事業所会議で話し合う。 どんなことでも報告し合えるスタッフの関係づくりをしている。 法人全体研修の1つに年1回計画している。		

評価機関：福祉サービス評価センターおおいた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員とも制度の理解が充分できていない。 今後の課題となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者それぞれに口頭、文書にて説明をし、同意を得る様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見等要望を言ってもらえる関係づくりに留意している。 又、情報はスタッフ間で共有できる工夫中。	面会時や電話で聞いている。運営推進会議に家族も参加しているので、聞く機会がある。 エアコンの調節要望や金銭の用途についての質問があり、収支報告をするように改善がされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で意見も聞き、利用者にもスタッフにも良い方向を模索中である。	会議時や日常的にも意見を良く聞いている。 時間帯による職員増や浴室のすべり止めマットの検討、購入など反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務中や休憩中の職員の会話、表情に気を配りスタッフの思いが伝えられる様に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ、一人ひとりの特性を知り、不足している所は個人的に指導、事業所内外研修も随時すすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今期はまだ行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談でご本人とのコミュニケーションを重視しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは利用前に1回以上面接や話す機会を作っています。 その中でご家族の真のニーズを探る様にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人のニーズには素早く対応する様心がけている又ケアマネージャーとも相談し利用者にとって良い方策をとる様に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から色々な場面で学ぶことが多いと感じられる様な時間多くとっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を随時伝え家族関係が深まる様に心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで生活してきた地域の老人クラブ参加等のご家族が連れて行ってくれている。	花が好きな利用者には生花を持ってきてもらったり、希望する風景の見える場所にドライブしたり、郵便局にハガキを買いに行く等の支援を行っている。近隣の友人が訪ねてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士気の合う仲間でも過ごす時間を作っている。 又スタッフはその関係を一緒に喜び合う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の行事や活動に声をかけていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人、家族から情報を得る。 表情や気分をみながらケアを検討している。	面会時に家族の要望を聞いたり、在宅時のケアマネージャやホームヘルパーから情報を得ている。日報等に記録している。	より本人本位に検討するには記録したものを職員間で共有し、ケアの向上に繋がることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネ、サービス事業所等より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子をスタッフ間で話し合える様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族と今までの状態を話し合い、今後は一緒に介護計画を立てていきたい。	記録を参考にし、管理者とリーダーで話し合いながらプランを作成しているが、職員や家族などは参加していない。家族からの同意欄に記載がない。	現状に即したより良いケアを実践するには関係する職員も参加し職員意見をプラン作成に反映することが重要であり、実践するには家族の同意を得る事が求められる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には実践のみの記載になっている。今後工夫が必要となりそうである。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近隣の友人の家との交流をしている。今後の課題となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で区長民生委員等に相談し、どのような活動ができるか相談している所です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談し決定しています。又専門医受診が家族支援で行い家族より診療情報を収集しています。	家族が希望するかかりつけ医になっている。専門医院などの通院は家族対応になっている。法人の医院に精神科の医師が月2回来院があるがその時は職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しているので健康管理を行っている。利用者の変化時の連絡体制はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況を定期的に伝えてもらっている。病院関係者、家族へ退院後のケア態勢を相談できる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には終末期看とりの支援の説明を行っている。その段階になった時、家族とどのような形で過ごされるのが良いのか相談する様にしている。	母体が医院であり管理者も看護師で、入所時に看取り支援を行う方針を説明している。職員も看取りの研修を受けたり、すでに他事業所で看取り経験のある職員もあり、方針の共有化はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時体制マニュアルを整備している。応急手当初期対応の訓練をしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、年2回の訓練計画実践している。地域合同訓練に参加している。	地域の住民参加は無いが消防団長が参加し避難訓練を行っている。地域主催の地域合同訓練に利用者も参加している。災害マニュアルを作成している。食料、備品の備蓄もしている。夜間を想定しての訓練を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重した声かけができています。	一人ひとりに配慮した声かけや、排泄誘導時の声かけなどプライバシーや尊厳を傷つけないように気をつけている。入浴や排泄支援の時は、羞恥心への配慮を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強制せず自己決定できる様に声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの体調に合った過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好みの服装をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の処理、盛り付け等一緒に行う。 おやつ作り等も行ってもらう。	食事は3食、事業所で作っている。おやつも利用者の希望によって手作りをしている。皮を剥いたり切ったり利用者の能力に合わせている。定期的にアンケートをとり利用者の好みものを栄養士が献立に取り入れている。職員も自分の弁当と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立作り、1日の目標水分摂取量がある。 色々な工夫をして摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に合わせた援助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を増やし、紙パンツやパッドの使用減をめざしている。	食前、食後の排泄誘導を行うことで、オムツ使用者が減少している。終日オムツ使用者はいない。利用者一人ひとりのサインを見逃さないようにしている。夜間はポータブルトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態チェック朝食後のトイレ誘導、食事、水分量チェック、乳製品を摂る。運動のすすめもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気の合う人と一緒に入浴を楽しんでもらう。	毎日、終日、入浴ができる。週2回は入浴するようにしている。皮膚疾患などの身体状況や、本人の希望で毎日入浴をする人もいる。檜風呂を2つ準備し交互に使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくりとぐっすり寝れる様に日中の活動をそれぞれ工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の種類等や薬情を確認する様にしている。又、変更や追加薬の情報、副作用も伝える様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お花等いただいたものを得意な方に生けていただき他利用者と喜び合う。利用者の自宅で採れたものを持って来ていただき利用者と一緒に作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い日等、外出をする日を増やしている。	道の駅に買い物に出かけたり、事業所の周辺を散歩している。歩けない人は車椅子で出かけている。懐かしい場所や季節ごとの花見等は車でドライブに出かけている。家族の協力で週2回外泊をしている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族本人の希望により、自分で持っている方あり。 ほしいものがある時はスタッフと一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望にそって電話の対応をしている。 家族からの手紙は喜ぶ返事を出す様すめたが、しまい込んでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は明るい、トイレは目印になる花のプレートを貼っているのわかりやすい。浴槽は檜風呂で入りやすく喜ばれている。	共用空間と台所は対面式になっている。壁には絵画や短歌を飾っている。小学校の廃校舎を改築しているので敷地も居室内もベランダも全体的に広々としていて陽当たりも良く、眺めも良い。廊下の散歩中の休憩や気の合う者同士の会話時等に木製の椅子やベンチを置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の前、廊下にイスやテーブルを置き、気の合う方と過ごす空間あり。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限りなじみのものを持っていただく様お願いしている。 家族の写真等貼っている。	家族の写真を壁に貼ったり飾ったりしている。お花の好きな利用者に家族が寄せ植えした鉢物を持ってきている。生花を生けている。窓からは、植えられた野菜や野山や田んぼが見え居心地が良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の部屋がわかりやすく目印になるものを貼っている。		